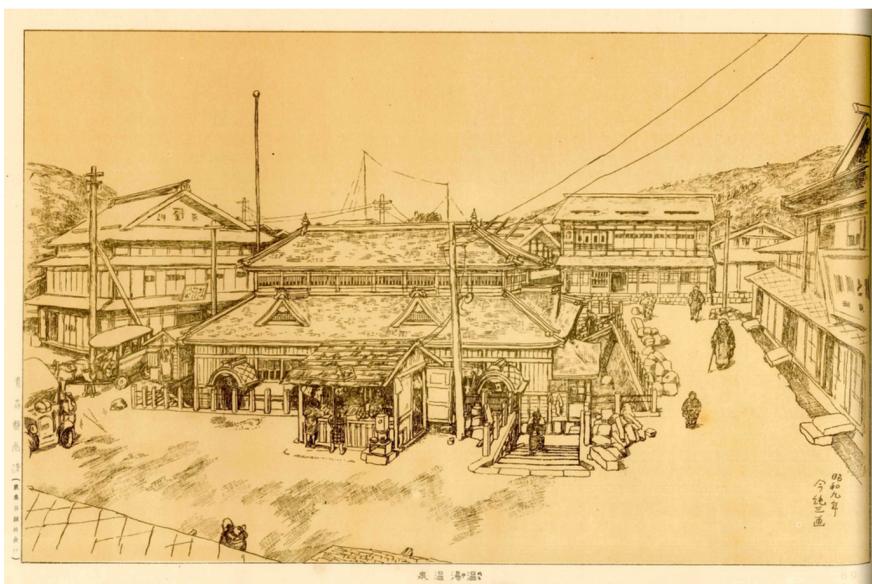


県民に芸術を

届けた今純三

中園 美穂

(弘前大学非常勤講師)



温湯共同浴場と客舎。原画は石版。『画譜』第9集の69より=1934(昭和9)年6月発行。
画像データは青森県提供(県史編さん資料)

青森県出身の洋画家で版画家である今純三は、「青森県画譜」を制作したことでも知られる。県内景勝地や名所、県民の生活などを収めた「画譜」は、1933(昭

0点すべての作品が版画で表現されたことである。官設の美術展覧会で油絵が入選していた彼は、関東大震災を転機に版画を研究する

ようになつたと考えられる。しかし、なぜ「画譜」は版画による作品だったのか。

純三は、画家自身が描いた絵画に対する版画とは対し、版画とは印刷の方法を介して造られた絵画」として造られた絵画」であると説明している。簡単に言えば、描かれた絵画と印刷された絵画に区別できるといふわけだ。

西洋では、油絵

の巨匠が銅版画の大作家でもあり、ゴヤやミレーなどは銅版画を、ロートレックは石版画をそれ制作し、

和8)年10月から翌年9月まで東奥日報社から毎月発行され予約者が購入した。

興味深いのは、収録された100点すべての作品が版画で表現されたことである。官設の美術展覧会で油絵が入選していた彼は、関東大震災を転機に版画を研究する

ようになつたと考えられる。しかし、なぜ「画譜」は版画による作

品だったのか。

純三は、画家自身が描いた絵画に対する版画とは対し、版画とは印刷の方法を介して造られた絵画」として造られた絵画」であると説明している。簡単に言えば、描かれた絵画と印刷された絵画に区別できるといふわけだ。

西洋では、油絵の巨匠が銅版画の大作家でもあり、ゴヤやミレーなどは銅版画を、ロートレックは石版画をそれ制作し、

「正直な写実から来る迫力を尊重」すると主張したほど、彼の持つ意味は写実性の高い精緻な描写である。高い写実性は優れた記録性を併せ持つ。これを版画で發揮したのである。

「画譜」の発行が始まる前に、彼は「画譜」が一般的な画集ではないと主張している。昭和初期は

『東京と青森』677号 東京青森県人会 令和6(2024)年10月号

描かれた絵画は一枚の原画として扱われ、それを所持する者は貴族階級など限定される。このため希少性の観点から、画家が直接描いた絵画に芸術的価値を置くのが常だろう。

これに対し、版画は一枚の原版から何回も原画を生み出せるので、多くの人びとに安価で提供できる利点がある。このため彼は、現代社会で庶民生活に芸術を取り入れるには版画が最適だと論じ、こうした版画に芸術的価値を見出しだったのである。

ただし、この場合の版画とは、版画家自身が下絵を描き、渾身の力で原版をつくって刷る版画でなければならぬとした。

多くの県民に版画という芸術に触れてもらうため、純三が全身全靈を注いで制作した「青森県画譜」。芸術が生活の中にあることを望んだ彼の願いは、県内最大の購読者数を持つ東奥日報社を通して、広く県民へ届けられたのであ

アトリエ社や美術新論社などが、版や写真版で出版していた。こうした画集と「画譜」は違うというのだ。